



俳句は、自分の心を表現する最良の手段

# 俳句の世界にスポーツを取り入れながら 体で感じたことを自由に表現し 新たな境地を開いていきたい

俳句の世界は、昔から季節の移り変わりや動植物の息吹、人々の生活の営みなどを季節とするのが一般的とされ、スポーツなどは俳句になりにくいといわれています。その中で、走ることや球技な

どから新しい俳句の世界を広げていこうと活躍されているのが、笹井在住の今坂柳二さんです。

今坂さんは狭山市俳句連盟の会長や、つばさ俳句会の代表を務めるかたわら、概念的な俳句の世界に新しい風を吹き込むため、スポーツを素材にした「スポーツ俳句」の作句に取り組んでいます。

幼少のころ、祖父や父が作った俳句に触れることから始めた今坂さんの俳句人生。農家に生まれ育ち、自然に恵まれた環境もあり、多くの作品と句集を生み出してきました。しかし、もともと俳句の季節とする世界の狭さに疑問を感じていた今坂さんは、55歳のときに始めたソフトボールがきっかけとなって、「スポーツ俳句」という新たなジャンルへの挑戦を始めました。

生活から直接肌で感じたものを素直に表現することが重要」と、作者自らが身をもって体験することの大切さを語ります。また、「汗を流しながら体を動かすと、これまでにはなかった視点から物事が観察できます。そこから斬新なアイデアが自然と浮かび、常識に左右されない個性的な俳句を作ることができま

す」と、自由な発想で作品を作り上げることの素晴らしさを強調します。

最近では、子ども達にも俳句の奥深さを伝えたい、俳句をもっと身近に感じて欲しいとの思いから、地元の小学校の作品展に協力している今坂さん。また、狭山市俳句連盟の活動をとおして、市民芸術祭への出展や、さやま大茶会で



これまで発行されたスポーツ句集の数々 (左から俳走紀、白球論、遊走録、棒球譚)

の俳句展の選定委員をされるなど、自らが培ってきた経験を生かし、地域の文化振興にも役立ちたいという気持ちで伝わってきます。

「スポーツ俳句」を作り始めて今年で23年。平成10年の「俳走紀」をはじめ、「白球論」、「遊走録」、「棒球譚」と発行を続けた句集は現在4冊となっています。来年、5冊目の発行をもってスポーツ俳句全集の集大成にしたいと思いき、と最後に力強く語ってくれました。

スポーツ俳句 俳人

今坂 柳二さん(笹井在住)

## 学校支援ボランティアの役割は



清野保夫さん  
(北入曾在住)

定年退職で社会の一線から退いた私たちにも、まだまだやれることがあり、地域社会への貢献は自分たちの喜びになるのではないかと。そんな思いから、私は狭山市学校支援ボランティアセンターに登録し、小・中学校で理科の授業のお手伝いをしています。私たちの地域には経験豊富な引退組の人材が大勢いますから、こうした制度ができたことは素晴らしいと思っています。

しかし、私たちボランティアは、基本的な姿勢を間違えてはいけません。学校の先生方には、自分たちの子どもや孫と同じぐらいの年齢の方もたくさんいらっしゃいます。私たちはあくまでもその先生たちに協力し、必要な手助けをする立場であり、先生たちの上に立ってしまうことや、私たちの存在が学校の負担になるようではいけません。これらの取り組みには、まだ試行錯誤も必要だと思いますが、私たちボランティアも意識を高める一方、市としても学校と私たちの連携がさらにスムーズになるような方法を考えていただきたいと思っています。

### 市の考え方

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

地域の方が学校の教育活動を応援して下さると、子ども達は多様な体験の機会を得られ、教員は教育活動に一層力を注ぐことができます。皆さんも子ども達から元気ももらっているのではないのでしょうか。よりスムーズな連携のために狭山市学校支援ボランティアセンターでは、今後ともボランティアと教員がその必要性や互いのマナーをとともに学ぶ研修会を開催していきます。

担当 社会教育課・教育指導課

皆さんの「声」をお待ちしています。  
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)  
✉koho@city.sayama.saitama.jp

私たちがアイディアを生かした自分の作品が完成すると、本当に気持ちのよい達成感があり、毎年秋に開催される市民文化祭へ作品を出品することが、私たちの励みになっています。年配者の多い私たちにとっては、常に手を動かし、頭を働かせることで、楽しみながら脳トレーニングになり、気持ちも前向きになります。また、活動中は自由に話ができるので、お互いの情報交換などで親睦も深まり、2か月ごとに開催される食事会もみんなの楽しみの一つです。

皆さんも私たちと一緒に手芸を楽しみながら、生き生きとした生活を送りませんか。

問合せ 小玉政子さんへ  
2952  
6319

私の宝物 ...

## 大切な家族との時を刻む腕時計



山下功一さん  
(柏原在住)

私の大切な宝物は、5年前、会社の定年のお祝いにと、家族から贈られた腕時計です。もともと腕時計の収集をしていましたが、この贈り物は、これまでのコレクションと違い、家族のやさしさを感じさせてくれる一番の宝物になりました。

以前は海外出張が多く、家族には寂しい思いをさせてきましたが、これからは家族と過ごす時間をたくさん持てると思います。私の人生を支えてくれた大切な家族(特に妻)と一緒に、この腕時計が時を刻むように、ゆっくりとこれからの人生を歩んでいきたいと思っています。



身に着けるたび家族の温かさを感じます

次回は友人で、狭山台にお住まいの方をご紹介します。

## Hello ハロー 仲間たち

Vol.328



作品を作る楽しさで、人生も明るくなります

## つつじ野寿会手芸クラブ

私たちのクラブは平成7年に発足し、現在、10名の会員が広瀬公民館で活動しています。会員の年齢は60歳から70歳代になりますが、みんな手芸が大好きな仲間たちです。

クラブでは、季節の物や干支などのテーマを決めて、パッチワークやくるみ絵、小物、編み物など、さまざまな手芸作品に挑戦しています。

個性とアイディアを生かした自分の作品が完成すると、本当に気持ちのよい達成感があり、毎年秋に開催される市民文化祭へ作品を出品することが、私たちの励みになっています。年配者の多い私たちにとっては、常に手を動かし、頭を働かせることで、楽しみながら脳トレーニングになり、気持ちも前向きになります。また、活動中は自由に話ができるので、お互いの情報交換などで親睦も深まり、2か月ごとに開催される食事会もみんなの楽しみの一つです。